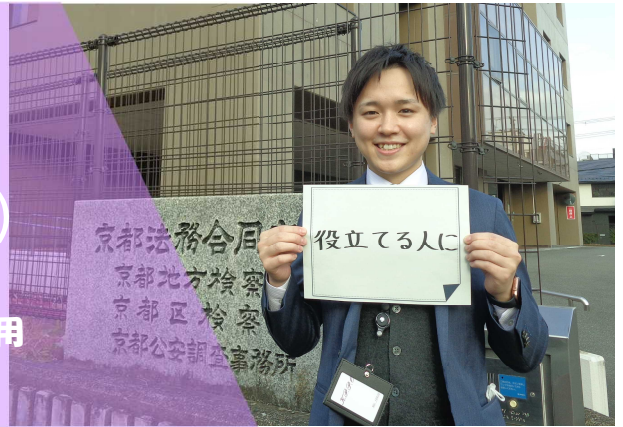


# 京都地方検察庁

## 検察事務官(特別刑事部)

20代 男性 / 平成25年度 採用



### モットー 役に立ってる人に

#### Q.今はどんなお仕事をしていますか？

現在、私が所属している特別刑事部は、検察庁で取り扱う数多くの事件の中でも主に、贈収賄などの汚職事件や脱税などの財政事件のほか公安・労働事件などを専門に捜査し、告訴や告発などを端緒に独自捜査（警察が関わらず検察庁が単独で捜査する事件のこと）を行う部署です。私が担当している仕事は、一般に立会事務官と呼ばれるもので、1人の検察官とペアを組み、その右腕となって、取調べ時の供述調書の作成や、事件の捜査や処分に必要な事務処理などを行い、時には、一緒に犯罪の現場や事件関係者のところへ出向いたりするなど、様々な角度から検察官の業務を補佐するものです。

また、会社や家宅などへの搜索差押えや被疑者の逮捕など、捜査の最前線に立つ場面もあり、常に人権と向かい合わせの緊張と責任のある仕事です。

#### Q.やりがいや達成感があった経験を教えてください。

私が、現在の特別刑事部に配属されて一番最初に取りかかった独自捜査事件のことは今でも強く印象に残っています。独自捜査事件では、事件に関する全ての書類は特別刑事部で収集・作成していて、配属された直後は、集まる書類の量の多さに驚くとともに、**一から事件を捜査していくことの大変さ**を痛感しました。炎天下の中いくつもの銀行や役所を駆け回り資料を集めてくる事務官や、連日取調べを担当する検察官・立会事務官など、そうした捜査官らの地道で大変な苦労を目の当たりにし、今まで以上に「自分も捜査の役に立たなければ」と気持ちがみなぎったことを覚えています。私自身も、事情聴取に立ち会い被害者の怒りやむなしさの感情に触れて、膨大な資料と格闘し、捜査を遂げられたときには、とても大きな達成感がありました。

## Q.職場の雰囲気はどうでしょうか？

現在ペアとなっている検察官とは仕事の合間に雑談したり、昼には食事と一緒に出たりなどして毎日楽しく仕事をしています。部内の他の立会事務官達とも気軽に頼み事をし合える関係で、繁忙期には互いに協力しあって仕事を進めることができる環境です。職場全体を通して、若手職員も多く、隙間時間に談笑したり、分からないことを教え合ったりして気軽なコミュニケーションを取っています。

一方で、被疑者と対峙するときなど、毅然とした態度を求められる場面もありますので、**オンとオフの切り替えが非常に大切**だと思っています。



## Q.検察庁に入庁して感じたことやギャップがあったことを教えてください。

入庁時、19歳だった私は、法律の知識はほぼゼロ、パソコンの能力も一般の高校生レベル、労働の経験もアルバイトの数ヶ月間のみで、自分の圧倒的な未熟さを自覚していて、さらに、地元の島根県を離れ、京都で初めての一人暮らしであったこともあって、「ここでうまくやっていけるだろうか。」と京都地検で勤務することにとっても不安を感じていました。ところが、入庁してみると、地元が京都でなかったり、法律を学んだ経験のない若手職員も少なくなく、**身近に自分と同じような境遇にある職員がいたこと**にとっても安心しました。

また、**研修や勉強会がとても充実**しており、ある程度の法律の知識は補えますし、現在所属する特別刑事部においても、最新の捜査手法に関する研修に参加させてもらえるなど、スキルアップの機会に恵まれた職場だと感じています。

## Q.余暇はどのように過ごしていますか？

土日、祝日は基本的に休みです。仕事終わりには近くのスポーツジムで汗を流したり、ネット配信のドラマを見たりして充実したプライベートを過ごしています。年次休暇を利用して、定期的に長期間地元に戻ってリフレッシュしたりもしています。

また、京都地検では職員のバンド活動が盛んで、私もそれに参加し、スタジオで演奏を楽しみながら、普段仕事上で関わることのない職員の方々と交流しています。

# 神戸地方検察庁

## 検察事務官(特別刑事部)

30代 男性/平成21年度 採用



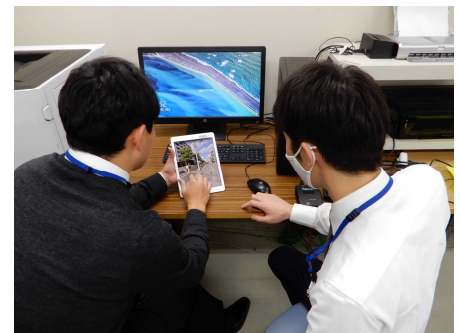
モットー **気づいたら 行動!**

### Q.今はどんなお仕事をしていますか？

現在、特別刑事部の捜査担当というところで働いています。検察庁で取り扱う事件の大半は、警察等が「被疑者の逮捕、関係者の事情聴取、証拠の収集」等の一次的な捜査を行った後、検察庁に事件が送られてくるものです。一方、私が執務している特別刑事部は、簡単に言うと、先ほど触れた警察等が行っている「被疑者の逮捕」等の一次的な捜査を、**最初から検察庁で行っているところ**です。具体的な仕事は、怪しいお金の動きを発見するために銀行で捜査をしたり、被疑者の行動を確認するために尾行したり、犯罪の立証に必要な証拠を集めるために搜索差押（いわゆるガサ）を行ったり、押収した携帯電話のデータを解析したり、被疑者を実際に逮捕することなどです。

### Q.法学部を卒業していなくても大丈夫ですか？

私は経済学部の卒業生であり、正直なところ、検察庁に入る前は、法学部ではない段階でハンデを背負っているものと思っていました。実際に官庁訪問でも「法学部の方が有利ですか？」と聞いた記憶もあります。ただ、入庁から現在に至るまで、「法学部を卒業していないこと」で不利になったことはないと思います。検察庁では、入庁から約10年までの間に数回の研修が実施されており、集中的に法的知識を学ぶことができますし、実務で必要となる知識は、実際に働きながら覚えることがほとんどです。法的知識を有していることは有益かと思いますが、「**入ってから勉強してやろう!**」というやる気がより大切ではないかと思います。



## Q.やいがいや達成感があった経験を教えてください。

特別刑事部で他機関と合同で取り扱った事件で、捜査を本格的に始める直前まで被疑者の住んでいる場所、連絡方法すら判明していないものがありました。このままでは、捜査を開始した際に、被疑者が自分が捕まるかもしれないことを察知して逃げてしまう可能性があったのです。そこで、被疑者の情報を入手した我々捜査担当は、被疑者の交際者と目されている人物の行動を確認することとし、**某繁華街で数時間の張り込み**を行いました。その結果、被疑者と交際者が接触している場面を発見し、張り込み、尾行を続けたことで、全く把握していなかったマンションに被疑者が住んでいることを特定しました。その後、被疑者の行動パターンを割り出し、実際の着手前日には、被疑者がマンションから夜中や早朝に出て行ってしまわないか捜査担当で交替で張り込みを行い、着手当日、無事に被疑者の身柄を確保することができました。ドラマで「牛乳とあんパン」を持ちながら張り込みを行う刑事さんを見ることはありましたが、「牛乳とあんパン」は持たないまでも、自分がその仕事をでき、また、結果として**被疑者の住居や行動パターンを割り出し、無事に身柄を確保できたことは、目に見える成果として達成感が得られました。**

## Q.検察事務官になろうと思ったきっかけは何ですか？

私は、民間企業での職務経歴があります。その企業は色々な事業を展開しており、自分が携わりたい仕事に配属されるとは限らず、自分の所属する事業部門が社会でどのように役立ち、影響を与えているのかが分かりにくいと感じたことがありました。公務員試験を受けるに当たり、自分の所属する組織が社会でどのような役割を担っているのかがはっきりした（分かりやすい）専門的な職場であれば、その中でどの部門に配属されたとしても、モチベーションを維持し、使命感を持って働くことができると考え、「**社会正義の実現**」というシンプルかつ明瞭な役割を担う検察庁で検察事務官として働きたいと考えるようになりました。

## Q.職場以外での職員同士の交流やクラブ活動について教えてください。

私自身としては、各職場で一緒だったメンバーとは、有志で年1回集まったり、自宅に遊びに行ったり、スポーツ観戦に行ったりと今でも仲良くしています。また、神戸地検のクラブ活動では野球部に所属し、検察庁対抗の大会で勝ったり負けたりしながら、**先輩・後輩と悲喜こもごもありながら親睦を深めています。**